**3月号の主な内容**

|  |  |
| --- | --- |
| P4 | 聴かせてください！あなたの家の防災対策 |
| P6 | 写真が伝えるおおさきの魅力第7回おおさき観光写真コンテスト入賞作品発表 |
| P8 | チャレンジ事業交付金・ステップアップ事業交付金皆さんの地域の課題解決に二つの交付金が活用されています |
| P10 | 十年物語　～おおさき人の軌跡～大崎市民生委員・児童委員協議会会長 高橋栄徳さん大崎市図書館 おはなし会ボランティア 門脇京子さん |
| P11 | 大崎市が進める地方創生 おおさき高校生タウンミーティング |
| P12 | 市政トピックス　2月の主な出来事 |
| P13 | 地域発！お・ら・ほ・の・ま・ち |
| P14 | オオサキプレイガイド |
| P16 | ふるさと納税で 全国の皆さんからあたたかい支援をいただきました　ほか |
| P18 | 今月のお知らせ |
| P26 | 子育て支援情報 |
| P27 | 育児相談・乳幼児健診 |
| P28 | 休日当番医　ほか |

**今月の表紙**

2月４日・５日の２日間、鳴子温泉地域中山平地区で、「スノーランタンフェスタin中山平2017」が、中山コミュニティセンターを会場に開催されました。４日は、ミツバチの巣から採取した「蜜ろう」で参加者オリジナルのろうそくを作り、その後、スノーランタン（雪灯篭）作りが行われました。

　日が暮れて、大小さまざまな形の雪のブロックを積み上げて作ったスノーランタンに、蜜ろうそくのやさしい明りが

灯ると、ランタンを透かしてもれる淡い光りによって、会場に幻想的な世界が広がりました。

　５日には、落語や音楽演奏も行われ、雪深さを味方につけて人を呼び込み、寒い冬を楽しく過ごす２日間となりました。

**パタ崎さんのひと口メモ**

●魅力ある温泉地を目指して

問合せ 観光交流課 電話23-7097

　「観光振興ビジョン」の目標達成に向けて、観光拠点である鳴子温泉地域を対象としたワークショップが昨年12月11日と２月５日に開

催されたよ。テーマは「10年後の魅力ある温泉地」。

　地元の観光関係者やまちづくり協議会メンバー、中学生や一般の皆さん、地域おこし協力隊員など、延べ70人が参加したんだ。

　鳴子温泉に、今必要なものは何か、自分たちがしなければならないことやできることは何かなど、いっぱい話し合われたよ。

　その結果、それぞれの立場で果たしていくべき役割をお互いに共有しながら、観光振興という同じ目標に向かっていくことが確認された。10年後の鳴子温泉も楽しみだな。

**伝統的な水利システムと地域環境の保全を両立する水田農業システム**

**vol.20　大崎耕土の豊かさを語る⑤**

●大崎地域の「自然と共生する農業」

　「大崎耕土」は、この大地と稲作への深い理解と強い想いにもとづいて、農法や水路に工夫を重ねてきた先人たちの、近世からの努力の賜ともいえる豊かな穀倉地帯です。それは、地域コミュニティが育んだ、互いに思いやり協力を惜しまない「共生の文化」を基調とした稲作文化に支えられています。そのあらわれの助け合いや思いやりは、わたしを含め、ここを訪れて地域の方たちと交流する者にとっては、地域の最大の魅力の一つです。

　共生の「優しいまなざし」は、この地を季節的に訪れるマガン、ハクチョウなどの水鳥をはじめ、水田や水路を暮らしの場とする生きものたちにも向けられています。大崎地域は全国にさきがけ、伝統的な知恵をも活かしながら、世界的に新たな課題となっている「生物多様性の保全」に貢献する共生農業の技術開発と実践を行い成功させています。生物多様性保全のための科学を専門とする研究者であるわたしは、その発想と実践に、深い敬意の念を抱かざるを得ません。それが効果的な取り組みであることは、マガンやハクチョウなどが生息数を増加させていることに表れています。

　水田の生物多様性の現状を全国のどの地域にもまして熱心に調査し、斑点米の原因となるカメムシを食べて稲作に貢献するクモ類やカエル類などの役割を知っていらっしゃる農家の方たちは、水鳥だけでなく、小さな生き物たちにもやさしいまなざしを向けています。

わたしは、この地域の「自然と共生する農業」が産み出す貴重なお米を、消費者の一人として利用させていただいています。毎日おいしいお米をいただきながら、大崎耕土に広がる「共生の輪」の中にいれていただいていることを感謝しています。

問合せ　産業政策課世界農業遺産推進室　23-2281

**市長コラム　天地人**

●復興・創生へ走る！　トランスイート四季島運行

　「汽笛一声新橋を はや我汽車は離れたり・・・♪」広く知られている鉄道唱歌の歌い始めです。鉄道唱歌は、全６集３７４番からなり、沿線の地理や歴史、民話や伝説、名産品の紹介を織り込んだ歌で、今でいう地域おこし応援歌です。

　殖産興業（明治政府の新産業育成政策）が推し進められていた明治時代、鉄道は、旅客はもとより食糧、石炭などの大量物資を効率的に首都圏に運び込む国策として整備され、その後、電化、新幹線と、鉄道インフラは夢を乗せて着実に整備されてまいりました。

　今年は、東北本線が開通して１３０周年、陸羽東線が全線開通して１００周年、東北新幹線開業35周年の慶事を迎えます。

　さらに今年から、上質で洗練された旅を、「深遊 探訪」のコンセプトのもとに提供するＪＲ東日本の「トランスイート四季島」が、東北本線と陸羽東線を走り、鳴子温泉駅に停車します。４年前からＪＲ九州が運行する「ななつ星in九州」の東北版です。

　人口減少が進む中、地方創生の切り札は、観光による交流人口の拡大です。

　「四季島」がもたらす効果は、単なる交通手段ではなく、地域の魅力の掘り起こしや、資源の磨き上げ、トレンド対応力やブランド力強化につながるものと期待し、２月13日に官民協働で「トランスイート四季島受け入れ大崎市実行委員会」を立ち上げました。

　内陸の復興モデル、地方創生成功モデルを目指す本市にとって、「四季島」の運行は、未来に羽ばたく応援隊になるでしょう。

　皆さんも「おもてなし」に参加してください。

大崎市長　伊藤 康志